

【報告事項1】

平成28年度事業計画

平成28年度事業計画について、一般社団法人しまね地域医療支援センター定款第40条の規定に基づき作成し、次のとおり報告する。

I. 事業計画策定にあたっての基本的な考え方

- 平成16年度に新たな医師臨床研修制度が導入されて以降、全国的に研修医が都市部に集中しやすい傾向にある。このような状況の中で、登録者のキャリア形成支援を通じて、医師の地域偏在解消を目指しているが、個々のキャリアプランを作成する過程でいかにその実効性を高めていくかが今後の課題となっている。
- 初期臨床研修においては、県内病院の魅力あるプログラムづくりや“オールしまね”で連携した研修体制の充実、地域枠学生に対する地元の市町村や医療機関の働きかけ等の成果により、平成27年度県内マッチング者数は、51名（島大病院 21名、県内市中病院 30名）となり、平成26年度に比べ3名減ったものの、増加傾向にあり、今後とも関係者と意見交換しながら初期研修の充実を図っていく。
- 一方、後期研修においては、平成29年度から始まる新専門医制度に向けた各診療領域での研修体制の構築が進められており、県内医療機関をローテートしながら専門医が取得できるよう、大学病院等の基幹施設と地域医療機関が連携した、“オールしまね”の研修体制が求められている。
- また、今後、地域枠・緊急枠医師等が毎年20名以上誕生するので、地域での受入体制や指導体制の充実が急務となっている。
- これらの課題解決のため、これまでの取組を踏まえ次の3項目を重点的に取り組んでいく。

< 3つの重点項目 >

重点1 地域枠等医師のキャリアプラン実行のための取組

登録者のキャリア形成支援を通じて、医師の地域偏在解消に取り組むこととし、アクションプランに基づいて、本人との面談、地域の意向確認、所属の意向確認を行い、県内を循環しながらキャリアアップができるキャリアプランの作成を進めているところである。今後このキャリアプランの実効性を高めるために、大学を含めた関係者で共通認識を持ち、キャリア形成支援基本方針に沿った支援ができる仕組みを整えていく。

重点2 後期研修を充実するための取組

平成29年度から始まる新専門医制度に向けて、大学病院をはじめとする基幹施設と地域医療機関が連携した“オールしまね”の研修プログラムを医学生や研修医に対して情報発信するとともに、県外にいる島根大学卒業医師や県内出身医師に対して、あらゆるチャンネルを活用してリクルート活動し、後期研修医を増やす取組を行っていく。

重点3 地域の指導体制の充実

地域（へき地）勤務が求められる地域枠等医師の受け皿となる地域の医療機関の指導体制の充実は、若手医師定着のための重要な要素であるため、地域の臨床現場での指導体制向上を図る取組を進める。

Ⅱ. 事業計画

1. 医師のキャリア形成支援事業 (13,062 千円)

しまねの地域医療に貢献する志を持った若手医師が県内で安心して研修・勤務できるようキャリア形成を支援する。

(1) 医師面談・医療機関調整事業 (10,722 千円)

①「しまね地域医療支援センターキャリア形成支援基本方針」を会員に周知・共有し、支援対象となる医師との面談を行って、個別のキャリアプログラムの作成を支援。

[平成 28 年度対象者 138 名]

[平成 27 年度面談実績]

対象者 127 名中、初期研修医 48 名、卒後 3 年目以上 67 名 合計 115 名

- ・地域の医療情勢や地域枠・奨学金の義務年限等を考慮し、研修先、勤務先や大学医局等の調整を通して、しまねを軸足にしたキャリアプログラムの作成を支援。
- ・地域枠や県の奨学金の貸与を受けた医師が、平成 28 年度は 20 名誕生した。
- ・特に、県外の研修病院で初期研修を行う者に対して、早期に面談を行い、しまねで後期研修を行うよう働きかける。

重点1 ②地域枠等医師のキャリアプラン実行のための取組

- ・支援対象医師が診療科や勤務地域を選択する際に参考となる、地域医療機関の医療事情や受入体制の状況などを調査・分析し、面談しながら支援対象者に情報提供する。
- ・大学を含めた関係機関で地域医療機関の情報を共有し、支援対象者と医局・所属医療機関の意向調整を行って、キャリアプランを策定する。
- ・特に地域と直接つながりのない緊急枠等の医師がいかに偏ることなく、地域の病院で研修勤務してもらうか、関係者間で情報共有し、議論する。

重点2 (2) 新専門医制度に関する情報収集・提供 (2,340 千円)

- [拡充]・平成 29 年度から後期研修が新専門医制度に移行することに伴い、地域枠等医師をはじめ、一人でも多くの地域医療を志す若手医師・医学生に、しまねに軸足を置いて研修・勤務してもらえるよう、新専門医制度に関する情報収集や情報提供を行う。
- ・また、大学病院をはじめとする基幹施設が策定する新専門医プログラムにおいて、地域枠等医師が義務履行と専門医取得の両立ができるようなモデルプログラムの作成を働きかけていく。

2. 充実した研修体制支援事業 (37,627 千円)

研修体制の充実を図るため、大学、初期臨床研修基幹病院、地域の中小規模病院、診療所等が連携して行う若手医師育成の取組を支援するとともに、しまねでの研修の魅力アップを図る。

(1) 研修ネットワーク支援事業 (14,030 千円)

県内で総合医・家庭医や精神科医等の育成のための県内ネットワークを構築し、研修体制の充実・支援を行う。

①総合診療専門医育成ネットワーク事業

- ・各医療機関間のネットワークづくり
- ・総合診療専門医育成のためのプログラム作成・指導体制の整備支援
- ・総合診療専門医等の研修
- ・医療機関・医師会・行政等と連携した総合診療専門医についての普及啓発

②精神科医キャリアアップ支援ネットワーク事業

- ・精神科医キャリアアップ研修会の開催
- ・短期研修参加経費の助成
- ・情報発信 等

③外科研修環境充実支援事業

- ・外科研修会の開催
- ・指導体制の充実支援
- ・普及啓発活動 等

[新規]④特定診療科育成ネットワーク事業

若手医師が不足している特定診療科に対して、若手医師育成のために必要な取組みを支援する。

(2) 若手医師等研修支援事業 (18,035 千円)

①しまね初期臨床研修医合同研修会の実施

県内の初期臨床研修医のネットワーク化や研修病院間の協力・連携を図り、県内での初期臨床研修の魅力をアップさせるために、県内で初期臨床研修を行う研修医を一同に集めて1泊2日の合同研修会を開催した。

- ・日 時：平成28年4月8日（金）～9日（土）
- ・参加者：初期研修医1年次 46名
- ・会 場：ニューウエルシティ出雲

②臨床研修充実支援事業

県内の臨床研修病院が連携・協力しながら、医学生及び研修医の研修環境の整備を行うことにより、地域に貢献できる質の高い医師を養成し、県内への定着を促進することを目的とする。

○初期臨床研修病院連絡会

各初期臨床研修病院の特徴を活かしつつ、“オールしまね”の体制で初期臨床研修の充実を図っていくため、各臨床研修病院の担当医師、事務担当者が情報交換、意見交換を行っていく連絡会を定期的に開催する。

[検討項目]

- ・臨床研修プログラムの充実（県内病院の連携促進）
- ・地域医療研修（ガイドブックの作成）
- ・医師の研修指導力、事務職員のサポート力向上に向けた取組
- ・研修医確保のための取組

○指導医向け研修会の開催

厚生労働省の定める「医師の臨床研修に係る指導医講習会の開催指針」に基づく講習会等を開催し、臨床研修指導医のスキルアップを図る。

○基本的臨床能力評価試験

県内の初期研修医の研修目標到達度を客観的に評価し、各病院の研修プログラムの改善や充実に資するため、日本医療教育プログラム推新機構（JAMEP）が実施する「基本的臨床能力評価試験」受験を支援する。

○病院見学旅費支援

県外での病院説明会で関心を持った多くの学生等に県内病院に見学に来てもらうことを促進するための旅費を支援する。

[新規]○若手医師提案事業助成

しまねで働く若手医師の自発的な活動を支援することにより、若手医師の自立と横断的な人的ネットワークの構築を図るため、県内の若手医師（40歳程度まで）が提案し実施する研鑽活動の経費を助成する。

重点3 (3) 指導医等研修支援事業 (5,562千円)

[拡充] 地域（へき地）勤務が求められる地域卒出身・奨学金貸与医師が増加するため、その受け皿となる地域の医療機関の指導体制の充実は若手医師定着のための重要な要素であることから、地域の臨床現場での指導体制向上を図るため、地域の医療機関が計画・実施する研修会や先進事例の視察調査などの取組に要する経費を助成する。

3. 研修医確保に向けた情報発信事業 (20,722千円)

島根大学医学部や島根県出身等で県外の大学に在籍している学生や初期研修医に対して、島根県の研修プログラムの魅力や“オールしまね”での医師の支援体制等をPRする。

また、多様なツールを活用して、後期研修医や指導医の生の声を提供し、しまねでの研修・勤務の魅力や意義を医学生、若手医師に伝える。

(1) 県内病院合同説明会等開催事業 (12,479千円)

① 県内病院合同説明会等開催事業

島根大学医学生（主に5、6年生）をはじめ全国の医学生を対象に、県内の臨床研修病院が一堂に会して臨床研修プログラムや指導体制をPRする合同説明会を開催することにより、しまねの臨床研修の魅力を伝え、一人でも多くの学生に県内研修病院を初期研修先に選択してもらい、若手医師の確保・定着につなげる。

・開催時期：平成28年6月4日（土）

・会場：島根大学医学部看護学科棟

② 全国規模の病院合同説明会への出展（※出展病院から一部負担金）

大阪、東京等で開催される研修病院説明会へ“オールしまね”で参加

・平成28年7月3日 レジナビ大阪

・平成28年7月17日 レジナビ東京

③ 医学生・研修医合同交流会 in 大阪・東京

レジナビ出展にあわせて、その開催地周辺の医学生や若手医師（センター登録者、県内医師の同期、友人等）と島根県内関係者（レジナビ参加研修医、指導医等）との交流会を開催し、県内で研修・勤務する医師を増やす。

(2) Web等活用した情報発信事業 (8,243千円)

“オールしまね”での若手医師の支援体制を周知するため、センターの取組や県内医療機関の研修体制のPRを行う。

① フェイスブック・ホームページ等を活用し、センターや大学、医療機関等の取組を発信

② 支援センターマガジン、オリジナルグッズの制作

4. ワークライフバランスの推進 (8,425 千円)

出産、育児、介護等による医師の離職防止、復職支援等の推進を図ることを目的に、県内ネットワークの構築、医療機関等の相談・支援体制の構築を図り、仕事と家庭の両立ができる働きやすい職場環境を整備し、女性医師等のキャリアサポートを推進していく。

(1) 復職支援体制構築事業 (6,459 千円)

①相談窓口

出産、育児後の女性医師等が安心して職場復帰できるための「えんネット」相談窓口。

②復職支援プログラム作成支援

オーダーメイド型の研修プログラムで安心して復職に向けた研修を支援する。

(2) WLB支援体制の構築事業 (1,966 千円)

①情報収集・情報発信

育児や介護、地域の子育て情報など、復職に対し必要な情報を発信する。

②女性医師等ネットワーク形成・研修会託児等支援

仕事に復帰したいと考えている女性医師等を対象にした情報交換やネットワークづくりや、復職支援の企画等の意見を聞く場としてランチミーティング等を開催する。

5. 関係機関との連携体制の構築 (3,030 千円)

関係機関との連携を強化し、学生や若手医師を多方面からサポートする体制を構築する。

また、トップセミナーや各会員との情報交換等を行い、県内全体で連携体制を強化する。

①トップセミナーの開催

県内の病院長や地方自治体のトップを対象として、キャリア形成支援基本方針やそれを実現するための病院の役割等についての共通認識・理解を深めるための意見交換等を行う。

②圏域別市町村・医療機関との情報交換会

課題把握と情報共有、センターへの要望などについて圏域別に情報交換会を行い、連携体制を強化する。

③島根大学医学部附属病院各診療科並びに医学部関係講座との連絡協議会

医師のキャリア形成等の支援と、医師、特に若手医師の県内定着を図るため、情報の共有化と連携体制の構築を図る。

④鳥取大学医学部との意見交換会

⑤センター定例会議の開催

・開催日：毎週1回

・参加者：支援センター医師、事務局職員

・内容：センター事業の企画・立案、事業実施状況の報告、検証、課題等を協議、意見交換

6. 医療状況の把握・分析 (1,095 千円)

県内の地域医療に資する調査・研究事業を推進し、医療状況の把握・分析を行う。

①県内の病院等勤務医師実態把握

島根県勤務医師実態調査を実施

②関連機関と連携した医師や研修医の情報収集

島根大学医学部と連携し、医学生や研修医との意見交換会を開催し、センター事業に対する意見やニーズを把握する。